

# ホフマン通信

—「国重要文化財☆日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設」保存修理情報— 第6号

## ◎焼成室ヴォールトの積直し

焼成室ヴォールト（アーチをもととした天井）は経年による垂下が生じていました。垂下の著しい箇所は積直しを行いました。

まず、窯上で作業ができるよう焼成室に型枠を組み、煉瓦積みの上部にあって、窯を構成する土砂を取り除いてから、煉瓦を解体しました。その後、復旧するアーチの形状や投炭口の位置を検討しながら、解体した煉瓦を再利用して焼成室上部の積み直しを行い、投炭口まで復旧しました。



ヴォールト積直し完了後



木造覆屋柱解体後



ヴォールト積直し着手前



作業用型枠の設置

## ◎木造覆屋柱と盤木の解体

木造覆屋の柱、煉瓦による基礎と柱との間に置かれた盤木を解体すると、窯外壁が一望できるようになりました。外壁は作業時に何度も修理が加えられていますが、かなりの凹凸が認められ、歪みが進行していることがわかります。

## ◎窯外壁地中部の確認調査

窯の基礎がどのようなになっているかを確認する目的で、窯外壁の地下の掘削を行いました。その結果、窯裾では地中部と地上部で段差が生じてい



ヴォールト積直し作業



窯外壁地中部の確認調査



ることがわかりました。

また、窯の外側に、用途は不明ですが、煉瓦が敷かれた箇所が見つかりました。その中には、明治44年に日本煉瓦製造株式会社と業務協定を結んでいた品川白煉瓦株式会社製の耐火煉瓦もありました。



窯の外側に敷かれた煉瓦と  
品川白煉瓦株式会社製の耐火煉瓦

### ◎補強方法の検討

これまで行ってきた窯や煙突の構造調査の結果、耐震性を確保するための補強方針として、窯については外側からの補強とすることとしました。この方針によれば、焼成室内部の補強材を極力少なくし、この文化財のもつ本質的価値を損なわず、かつ窯内部の空間を有効に公開活用できるようになります。

また、煙突については、耐震性能上の弱点が確認され、倒壊する危険性があるため、やはり外部から補強する必要性が判明しました。こうしたことから、窯外部と煙突周囲に鉄骨補強をして耐震性を確保することとしました。

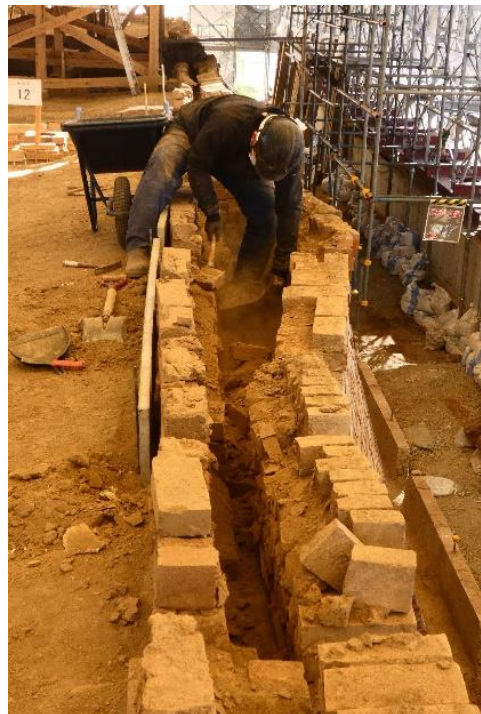
窯外壁は凹凸が激しく、コーナー部分もあるため、実寸大の模型を作るなどして、窯の実態にあった補強材について検討しています。



窯補強部材の検討

### ◎外壁頂部内側の土砂掘り出し

外壁頂部の内側には、木造覆屋2階を構成する根太受けの煉瓦積みが巡っています。窯外壁に補強材を固定するにあたり、外壁部の構造を詳細に確認するため、試掘を行いました。このデータも参考に、施工方法を検討しています。



外壁頂部内側の土砂掘り出し

編集：埼玉県深谷市教育委員会文化振興課  
発行：2021年（令和3年）7月 7日